

東日本大震災支援活動報告 日精看災対策本部のこれまでの活動

	概要	情報収集および発信	支部との連携	支援物資	義援金	人的支援(ボランティア)	教育的支援(研修会等)	厚生労働省や被災県との調整
3月	11日被害日本大震災発生 協会内も被害を受ける 14日災害対策本部を設置	被災状況調査の開始 14日協会HPでお見舞い文を掲載 支部事務局へFAX通信を開始 被災状況マップを作成 24日協会役員による現地派遣第1陣出発 28日第1陣が帰還 29日第2陣8時出発、0時帰還 4日～5日協会役員現地派遣第3陣	全県支部へ被災状況の報告と支援の要請FAX 第1陣のメンバーと被災3県の支部役員現地合流 支援物資をお届けする。	22日支援物資の募集を開始 25日支援物資が徐々に到着 30日支援物資を研修会場へ移動 支援物資の宅急便配達を開始	18日義援金の募集開始	20日ボランティアの募集を開始		16日ボランティア派遣について厚生労働省看護課と連絡を開始 23日厚生労働省看護課にボランティア応募数を報告(40名) 28日京都市へセミナーハウスの避難住居としての提供を申請
4月	8日臨時理事会を開催 ・平成23年度会費免除 ・義援金早期受け渡しを決議 総会議案とした		第3陣支援物資を福島県支部事務局へ提供	支援物資の一次募集をメ切	13日時点で義援金振込が1千万円を突破 30日第1次義援金の集計 16632262円	11日から宮城県仙南中央病院へ派遣 ・6日間ずつ6クルの予定で開始 4月29日から福島県いわき市へボランティア を福島県支部と連携して5日まで2名派遣		厚生労働省看護課へボランティア派遣状況を週2回報告
5月	ボランティア派遣に伴う環境調整 関係団体、応募者との連絡調整 30日総会において会費免除決定 福岡大会において災害支援 アクションを展開 ・被災会員による緊急報告会を実施	5月27日東北8県および茨城県、千葉県、東京都の8県 に被災状況調査票を送付する (対象247施設と110名の会員、合計約8000名)	福島県支部事務局へ支援物資の保管を依頼 東京紅葉ヶ丘の倉庫にも支援物資を一時保管	支援物資の配送及び保管場所の移動 (協会の研修会開始のため)	第2次義援金を年末まで募集開始	1日予定より早く仙南中央病院の派遣を完了 5日いわき市の派遣完了 19日福島県ピックハレットふくしまのボランティア開始 深夜、早夜2名の支援を予定し、まずは日勤を開始 現地コーディネーターを継続配置		福島県の要請に基づき、ピックハレットふくしまの派遣を開始
6月		22日被災報告調査票のメ切	・宮城県支部の事務機能を対策本部が代行		被災調査表に基づき、義援金の配布 開始	7日夜勤ボランティアの本格稼働		2日厚生労働省精神・障害保健課の支援会議に出席
7月			16日東北復興会議を仙台で開催 支部役員(支部長及び事務局長)と協会役員で協議		16日協会役員が南浜中央病院の職員に 直接義援金を手渡す(約40名)			27日厚生労働省精神障害・保健課主催の関連団体との会議
8月	8月号の精神科看護に災害対策本部 活動を掲載	精神保健連盟だよりに活動を寄稿	宮城県支部と連携して支部大会準備		17日 亡くなった会員さん2名のご家族へ お悔やみのご挨拶に向う 義援金の振込作業を展開			18日 石巻市訪問看護ステーション施設長会議に出席 ・支援の方法について協議→研修会を開催
9月								23日 石巻市において訪問看護ステーション職員対象 の支援研修会 ・仲野専務「精神科訪問看護の基礎」 ・末安会長「人を助ける仕事―息長く続けるための方法―」
10月	10月号の精神科看護に災害対策本部 活動についてインタビューの掲載 22日 精神科救急学会 宮崎において 災害シンポジウムに参加				31日現在、約800名に義援金をお届け 義援金の残額200万円弱	3日～10月中福島県相双地区の心のケアチームへ 1名派遣	15日 宮城県支部大会と講演会の開催 ・末安会長講演「被災者と援助者―「悲嘆」に寄り添うこと」 ・支部主催の被災報告シンポジウムを支援 26日 石巻市訪問看護ステーション職員の事例検討会	3日相双地区へ人材派遣1カ月福島県の要請に基づき実施 12日厚生労働省精神・障害保健課の会議人材確保に関して
11月			福島県支部と連携して支部大会準備 25日福島県支部役員会に対策本部から派遣			中旬から被災地3県への短期雇用案内を開始予定		7日厚生労働省精神・障害保健課の会議人材確保に関して 26日 ネット九州において「災害支援フォーラム」を開催
今後の 予定								1月20日に福島県支部大会および講演を予定